

第3章 廃棄物政策力向上セミナー

第1節 開催場所、日時

福岡市「福岡国際会議場」：平成24年3月2日（金）

第2節 参加人数

セミナーへの参加人数は以下のとおりです。

県域	人数
福岡県	72人
佐賀県	12人
長崎県	10人
熊本県	16人
大分県	7人
宮崎県	1人
鹿児島県	2人
沖縄県	1人
計	121人

第3節 セミナーの目的

平成21年度から継続している「地域循環圏形成推進調査」の事業の進捗状況を報告するとともに九州地域における地域循環圏形成に向けた普及啓発を図りました。

第4節 プログラム

セミナーのプログラムは次ページのとおりです。

九州地方環境事務所主催

平成23年度 市町村のための廃棄物政策力向上セミナー プログラム

平成24年3月2日（金）

福岡国際会議場

時刻		プログラム・演者
始	終	
9:50	10:00	ガイダンス セミナー事務局
10:00	10:05	主催者あいさつ 九州地方環境事務所 課長 澤田 真信
10:05	10:55	基調講演「地域循環圏形成の意義と手法」 北九州市立大学 大学院 教授 松本 亨
10:55	11:15	九州会議報告 （財）日本環境衛生センター 課長 土谷 光重 九州地方環境事務所 課長補佐 原 慎一郎
11:15	12:00	23年度モデル事業報告 モデル事業主体 大野城市・筑後市・対馬市
12:00	13:00	昼 食 休 憩
13:00	13:45	パネルディスカッション 「地域循環圏形成のために！」 コーディネーター 北九州市立大学 大学院 教授 松本 亨 パネラー NPO法人 大地といのちの会 理事長 吉田 俊道 長崎大学 大学院 准教授 中村 修 太宰府市 環境課 事務主査 山崎 崇 大野城市 廃棄物対策課 主任主事 大道 和貴 筑後市 かんきょう課 係長 古賀 和広 対馬市 環境政策課 主事 糸瀬 宏昭 九州地方環境事務所 課長 澤田 真信 （財）日本環境衛生センター 課長 土谷 光重
13:45	13:55	休 憩
13:55	14:40	特別講演Ⅰ 「処理」から「循環利用」へ ー市町村の役割、県の役割、国の役割ー 長崎大学 大学院 准教授 中村 修
14:40	15:25	特別講演Ⅱ 「幼児、学校、社会教育の中での いのちのつながり体験の勧め」 NPO法人 大地といのちの会 理事長 吉田 俊道
15:25	15:40	休 憩
15:40	16:00	国における施策の動向 九州地方環境事務所 課長 澤田 真信
		「災害廃棄物の広域処理の推進について」 廃棄物対策等調査官 木下 朋行



←挨拶をする九州地方環境事務所
澤田課長

第5節 セミナーの内容

内容は次のとおりで、参考資料にセミナー時に配布した資料を添付しました。

1. 基調講演

「地域循環圏形成の意義と手法」 北九州市立大学 大学院 教授 松本 亨

本九州会議の座長であり、環境本省の地域循環圏形成に向けた検討会の委員でもある松本先生により地域循環圏形成の意義と手法について、情報提供と考え方を解説していただきました。

講演中の松本先生 →



2. 九州会議報告

平成22～23年度の九州会議における事業の進捗状況について、事務局から情報提供を行いました。

3. 平成23年度モデル事業報告

平成23年度の事業として行ったモデル事業について、事業主体の自治体から情報提供を行っていただきました。自治体は次のとおりです。

- ①太宰府市、大野城市
- ②筑後市 大野城市 大道主任主事→
- ③対馬市



↓ 筑後市 古賀係長



対馬市
糸瀬主事

→



4. パネルディスカッション

基調講演者、特別講演者、モデル自治体担当者及び事務局により、「地域循環圏形成のために！」と題して、モデル事業を行った経験を踏まえ、今後事業を進めるための課題や方向性について意見交換を行いました。



↑ パネルディスカッション時の松本教授



↑ パネラーの皆さん

会場との意見交換では、「段階的に導入すると言うが具体的にどういう段階があるのか」、「できた堆肥の安全性についてどう考えるのか」、「試算の条件としている堆肥の原料は何か」、「生ごみを分別、資源化するメリットは何か」など、行政担当者ならではの具体的な質問が寄せられ、有意義な意見交換が行われました。最後にコーディネーターの松本教授によって、地域循環圏の意義について、①ごみ処理だけでなく例えば農業や福祉といった他の分野への波及効果が期待できる、②いろいろな利害関係者が一つのテーマに沿って議論することで、新たな街づくりのきっかけにもなることから、九州の地域特性に応じた地域循環事例が発信されることを期待するということがばで締めくくられると、大きな拍手がわきおこりました。

5. 特別講演

地域循環圏の形成に関して、行政の立場以外の立場から二題の特別講演をお願いしました。

(1) 「処理」から「循環利用」へ 長崎大学 大学院 准教授 中村 修

中村先生には、自治体の廃棄物処理行政をお手伝いになった経験や小学校における環境教育の指導や教材づくりの経験から地域循環圏形成に当たっての自治体の役割についてお話しいただきました。

講演中の中村先生 →



(2) 幼児、学校、社会教育の中での

いのちのつながり体験の勧め

吉田理事長には、日頃から実践されている地域の中に入り込んでの食育の体験を通して、いのちが繋がるお話をいただきました。

講演中の吉田理事長 →

NPO 法人 大地といのちの会

理事長 吉田 俊道



6. 情報提供

環境事務所からは、二題の情報提供がありました。

(1) 災害廃棄物の広域処理の推進について

(2) 小型電気電子機器のリサイクル制度案について



↑ 情報提供中の澤田課長



↑ 情報提供中の木下調査官



会場の様子



第6節 セミナー終了後のアンケート調査

セミナー終了後のアンケート調査結果について以下に整理しました。

セミナー参加者アンケートの集計結果

A. 参加者と今回のセミナーについて

a.参加者の職種

事務職	技術職	管理職	一般職	主に政策 の企画・ 立案	主に現場 管理・運 営	無回答	合計
42	6	8	14	11	3	3	87

b.参加の感想

とても参考 になった	ある程度参 考になった	あまり参 考になら なかった	まったく参考 にならなかつ た	無回答	合計
34	36	1	0	2	73

c.参考になった講演、事例発表等

基調講演	九州会議 報告	23年度 モデル事 業報告	パネルデ ィスカッ ション	特別講演 Ⅰ	特別講演 Ⅱ	国におけ る施策の 動向	合計
8	0	33	18	56	50	2	167

d.参考にならなかった点（1件）

事例発表で3つのケースのうち、なぜ対馬市だけ費用的に有利にならなかったのか知りたかった。（島だからなのか、溶融炉だからなのかe t c）自分の市町村が実際にどのケースに近いのか、市町村レベルだけでは比較できないような気がする。どういうケースだと費用的に有利に働きやすいのか、まとめたものがほしかった。レアメタルについても、市町村に対するメリット（収益等）まで積算して数字としてある程度出してもらおうと取組みやすいと思う。

B.今後のセミナーについて

a.希望する開催時期

4～6月	7～9月	10～12 月	1～3月	その他	無回答	合計
2	24	24	19		1	70

b.希望する形式

座学	施設見学	討論	その他	無回答	合計
47	45	7	2	4	105

c.取り上げて欲しいテーマ

有料化	会計基準	処理・リサイクル全体のスキームの改善	焼却炉・溶融炉	埋立処分場	容器包装リサイクル	温暖化対策・省エネ法対応	災害対策	生ごみ
10	6	15	6	1	10	10	5	22

プラスチックごみ	紙ごみ	レアメタル	その他資源ごみ	事業系ごみ	不法投棄	その他	合計
14	12	11	4	22	24	7	179

その他：☒バイオマス、☒循環社会、☒竹と生ごみ等を使った堆肥使い、☒リユースの推進、☒高齢化に伴うごみ出しの問題、☒小型家電処理、☒がれきの広域処理

C. その他の意見

半月のスケジュールだと参加しやすい。
下水汚泥や生ごみの利活用について、様々な取組みや問題点について聞きたい。
開催場所を各県にまわしてほしい
今回のセミナーはとても参考になりました。今後もよろしくお願いします。
食育
とても参考になり、勉強ができた。良い刺激をもらいました。希望する事は、九州 県単位で行ってほしいことです。これだけの内容を一部市町村しか知らないのがもったいないと思いました。
モデル事業報告を一番楽しみにしていましたが、事業として期間が短すぎて中途半端になっていたように感じる。もったいないと思います。
ごみ減量事業について、貴重な勉強になりました。これを参考にいろんな施策に取り組みたいと思いました。
大木町の取組みを詳しく説明してほしい。
セミナーの開催期間は2日間でお願いしたい。
テーマに対して Good 人選だったと思います。今後もこのような人選で講師を決めて下さい。
項目を盛り込みすぎと思う。一つ一つの内容がうすくなってしまうと感じた。